

花の国づくり滋賀県協議会（滋賀県）

協議会構成団体：滋賀県花き園芸協会、滋賀県生花商協会、
日本フラワーデザイナー協会滋賀県支部、
株式会社なにわ花いちば、京都生花株式会社、滋賀県

戦略品目

切り花：洋マム、ばら

< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

(1) 洋マム

- ・これまで有望品種の選定や需要実態調査による栽培体系の検討を行った結果をもとに現地実証を実施した。
- ・11月収穫の洋マムについて低温開花性品種を用いて無加温栽培が可能かどうか農業技術振興センターで実証した。

(2) ばら

- ・スリップス類についてLED光式捕虫器と薬剤防除の組み合わせによる被害低減の実証を行った。
- ・微酸性電解水の散布によりうどんこ病被害が軽減できるかどうか検証した。

< 取組の成果 >

(1) 洋マム

- ・現地実証では、8月直挿しで70cm以上の切り花が秋から冬にかけて収穫できることが明らかとなった。
- ・無加温栽培実証では、少量土壌培地耕で低温開花性品種を8月中旬に直挿しすると11月中に70cm以上の切り花が得られた。



洋マム栽培の実証

(2) ばら

- ・LED光式捕虫器により発生予察として防除時期の判断ができ、適期の薬剤防除により被害を一定抑制することができた。
- ・微酸性電解水の散布のみではうどんこ病を完全に抑えることはできなかった。



微酸性電解水散布の様子

< 今後の取組予定 >

(1) 洋マム

- ・過去の成果とともに11月無加温栽培も含めて普及拡大をすすめていく。

(2) ばら

- ・LED光式捕虫器と微酸性電解水が現場で導入できるかどうかを検討する。

京都府花き振興ネットワーク (京都府)

協議会構成団体：京都府花き生産組合連合会、京都生花株式会社、株式会社大原総合花き市場、京都府花商協同組合、京都府園芸商組合、京都府農業協同組合中央会、京都市、京都府

戦略品目

花壇苗：ペゴニア、マリーゴールド、ナデシコ、パンジー
 切り花：バラ、ひまわり、コットンフラワー、かんぞう、河原撫子、ナルコユリ、檜扇、花しょうぶ、小ギク
 切り枝：桃、ユーカリ、ミモザ

< 取組内容 >

< 取組の成果 >

1 生産供給体制の強化

- ・ 小ギクを需要期に出荷するための電照栽培技術の実証及び品種の検討。
- ・ 小ギクにおけるT字型ノズルを用いた薬剤散布作業の省力化試験。
- ・ 花しょうぶ疫病対策技術の実証。
- ・ 切り枝花材（桃及びミモザ）の花色や開花状態を良好に保つ、鮮度保持技術の検証。
- ・ 花壇苗専門店やデザイナーが求める花付きの良い花壇苗の生産に向けた講習。

- ・ 適切なLED電球の設置高及び間隔を確立するとともに、複数品種の栽培試験を通じて、品種ごとの開花特性を把握した。
- ・ T字型ノズルにより作業に要する時間が従来の5割減となったほか均一な散布が実現。
- ・ 花しょうぶ疫病対策として、低濃度エタノール消毒及び亜リン酸肥料散布を実施し、作業性が良好であることを確認した。（効果はR4に評価）
- ・ 3種類の水揚げ剤を用いて、花色や開花状態を比較し、鮮度保持技術を確立。
- ・ 実需者の求める花壇苗の品目や活用方法について情報共有。



低濃度エタノール消毒の実施

3 需要の拡大

- ・ 児童及び大学生を対象に、戦略品目の花きを用いた花育を行い、若年層の新規需要の創出を目指す。
- ・ 戦略品目の展示を通じて、花きの持つ魅力や活用方法を紹介し、消費拡大を目指す。

- ・ 花育体験参加者計929名の家庭での花き購入意欲が向上。
- ・ 花き小売店に、四季に応じて地元産の花きを使う意識が芽生えたほか、新たな花きの活用方法について実需者とのマッチングが進んだ。



保育園における花育

< 今後の取組予定 >

- ・ 得られた栽培技術の普及及び生産拡大を行うとともに、実需者ニーズの見込まれる品目の需要調査及び府内での栽培可能性を検証し、新たな産地の創出を行う。
- ・ 生産拡大を行う品目について、ワークショップ等を通じて消費者に情報発信を行い、販路拡大のため、実需者とのマッチングを行う。

大阪府花き振興協議会 (大阪府)

協議会構成団体: 大阪府花き園芸連合会、大阪生花商業協同組合、関西花き事業協同組合、大阪園芸商組合、大阪府地方卸売市場協会、なにわ花いちば、西日本花き、JF兵庫県生花、JF鶴見花き、花キューピット大阪連合支部、日本ハンギングバスケット協会、日本フラワーデザイナー協会大阪支部、国際花とみどりのセラピー協会、大阪生花商業協同組合技能士会、大阪鶴見フラワーセンター、大阪府環境農林水産部農政室・流通対策室

戦略品目

花壇用苗もの: ペチュニア、ビンカ、コリウス、アンゲロニア、千日紅、インパチェンス、ペゴニア、ペンタス
 切り枝: 桜、花桃、ミモザアカシア
 切り花: 胡蝶蘭
 鉢もの: クリスマスローズ

< 取組内容 >

1 生産供給体制の強化

- ①2025年大阪万博での花壇苗の利用促進に向け、戦略品目にその他品目を加えた24品目85品種を万博会場付近のトライアルガーデンで試験栽培。併せて、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所で耐暑性、耐塩性の試験を実施。
- ②啓翁桜切り枝の花色が白くなる症状の対策として、低温処理条件の違いによる改善効果を検証。
- ③ミモザ切り枝の開花不良としおれの改善に向け、開花処理液による改善効果を実証。
- ④胡蝶蘭切り花の鮮度保持試験、クリスマスローズ鉢花の省力的施肥管理試験を実施。

3 需要の拡大

- ①JR天王寺駅や万博記念公園、天王寺ミオ・あべのハルカスなどの商業施設において、戦略品目をを用いた展示イベントを開催し、一般府民への花の展示と配布。
- ②小学5年生児童に戦略品目をを用いた花育教室を開催。

< 取組の成果 >

- ①アンゲロニア、ニチニチソウ、ヒャクニチソウ、ペチュニアは高温生育性・高温開花性が高く、ペチュニアは3%食塩水の葉面散布、土壌灌注とも障害の発生が認められなかったなど、85品種の耐暑性、耐塩性を把握できた。
- ②啓翁桜の花色はつぼみ発達時の低温に影響を受け、花卉の発達には低温が必要であること、低温感応期間はつぼみの限られたステージであることが判明した。
- ③ミモザは特定の開花液を用いた開花処理で出荷段階・販売段階における開花不良解消技術が確立できた。
- ④胡蝶蘭切り花の鮮度保持技術を確立した。クリスマスローズは緩効性粒状肥料による省力生産技術を確立した。



花壇苗栽培試験



啓翁桜の低温処理による花色変化試験



胡蝶蘭の出荷前処理による鮮度保持技術を実証

- ①「OSAKA FLOWER」のロゴマークを活用した展示により、来場者に対し大阪産の花きのPRを行うことができた。また、来場者96名に対してアンケートを行い、花の購入目的やコロナ禍における花の購入意欲について把握した。
- ②小学校5年生120名に対し、クリスマスローズの寄せ植え体験授業を実施し、大阪の花の認知度向上を図ることができた。



戦略品目の展示

< 今後の取組予定 >

- ・花壇苗の耐暑性、耐塩性試験はR4年度も試験を行い、気象条件の違いによる生育、開花、病害虫発生状況の違いを把握してデータの蓄積に努める。
- ・大阪の花「サクラソウ」を中心とした有望品目の試験栽培、LED補光による胡蝶蘭の省エネルギー栽培技術確立等に取り組む。
- ・鉄道会社等と連携した駅、商業施設での「OSAKA FLOWER」ロゴを用いた大阪産花きの利用に関する普及啓発イベント、花き消費拡大のための普及啓発活動およびSNSによる情報発信と収集を行う。